

す。RIの出先機関たるガバナーが皆様のクラブに対し、自治権を侵してまでCLPを採用するよう強制する権限は、全くもっていません。ここをよく考えてください。CLPに基づくクラブの推奨委員会構成図というものが出されておりますが、これが実は間違いのもとであったのです。CLPはあえていうならば、クラブを活性化するためには、どのような委員会構成(中・長期的展望を含めて)をすればよいのかという文のものであり、CLPが提唱される以前から、各クラブが抱え、悩んでいた問題を別の表現で言い換えたものでしかありません。CLPをクラブで熟考の上採用しようとしまいと各クラブはいつもクラブの活性化をはかることを考えていかねばなりません。クラブ活性化をはかる第一番のものは、クラブの独自性を打ち出し、特徴のあるそして個性のあるクラブを作ります。独自性、個性を失ったクラブは、他人(特にガバナー)の言いなりになり、やがてはパワーを失ってクラブは停滞致します。ここで一つ丈、御注意申し上げます。私はCLPの考え方自体を否定するものではありませんが、これをガバナーが、強制したり、提案されているままに、クラブが何の熟慮もなしに採用することには反対です。CLPが提案されてから、急に、強く言われたのが、「常任委員会」(Standing committee)という言葉であり、又新しく「奉仕プロジェクト委員会」という言葉があります。以前の推奨クラブ細則でもStanding committeeの訳として、常任委員会という言葉が用いられていました。しかし、Standingとはad hocの対語として用いられていますから、単なる「委員会」と訳するのが適切です。委員会の中に、信任できる委員会と信任できない委員会がある筈がないのですから。奉仕プロジェクトという言葉も吟味の必要性があります。プロジェクトは「事業」あるいは「計画」を意味するのでありますから、奉仕プロジェクト委員会も、単に奉仕委員会でよいと思います。これらの他にも問題があります。例えば、クラブ管理運営委員会という訳し方があります。原文はClub Administrationですが、これをクラブ管理運営委員会と訳すことによってクラブの管理はこの委員会が担うのであるという誤解が生じます。何故なら、クラブ管理の主体はあくまでも理事会なのです。これらの点を吟味することなく、無批判的に、訳されたCLPの言葉をそのまま採用するというのは、決して自主的に採用したとは言えないということを心得ておいて下さい。

RIでは、共通のマニュアルとして、手続要覧を発

行しています。この手続要覧は、安価なものですから、会員の皆様が各自購入して下さいようお願い申し上げます。3年毎に発行され、日本語版も、時期は遅れますが、同じようにして3年毎に発行されています。この手続要覧はRI事務総長が、発行しています。しかし年度が異なると意図的かどうかは判りませんが、異なっている箇所があります。2007年度版、2004年度版のどこを探しても、RIの管理(RI Administration)という見出しの、「RIの管理の基本原則は、加盟ロータリークラブの大幅な自治にある。……」という項が2001年度版、あるいは、それ以前の版には載っておりました。こんな大切な、しかもロータリーにとって本質的な部分が削除されてしまっているのに、これを問題にする方に、私は会ったことがありません。(以前は、これが削除されて、大問題となり、又、元に戻った経緯があるようです。)これが当たり前の事態になってしまえば、ロータリークラブの自治権はやがてなくなってしまいかねません。私はRI事務総長に、この部分の復活をお願いしたいと思っております。

## 6月はロータリー親睦活動月間

親睦活動といっても、こちらの方は、クラブ内親睦活動ではありません。ロータリー親睦活動というのは、国際奉仕部門に属するものであり、趣味を通じて国際親善と奉仕に貢献するためのものであります。日本では、この「ロータリー親睦活動」は、余りポピュラーなものとして定着していないようですが、囲碁やチェスやアマチュア無線あるいは又、ヨットのグループ等々約80ものグループがあるようです。最近になって、ヨットのグループに属する京滋の会員が琵琶湖を中心として京滋支部を結成したことが、目立った動きとなっています。私の個人的な意見ですが、RIで今試験的に取り入れておりますウェブサイトを通じたロータリークラブなどは認めずに、むしろこの「ロータリー親睦活動」としての活動にした方が余程良いと思っております。ロータリーの綱領(object)とは、ロータリーの目的であり、この目的を達成するためには、メンバー同士が顔と顔を付き合わせる例会がなくては、不可能のように思うからです。「ロータリー親睦活動月間」に因んで、私見を披露しましたこと、御許し下さい。

終りにあたり、この12ヶ月間私からの月信を読んでもいただきありがとうございました。余すところ総集編への寄稿を残すのみです。この間様々な感想などをいただき感謝いたしますとともに、不十分な対応に終始しましたことをご寛恕くださいませ。